

令和 元 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート
(平成 30 年度の実績評価)

作成日 令和 1 年 6 月 24 日
更新日 令和 年 月 日

総合計画体系	政策No. 4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	教育委員会 教育総務課
	施策No. 21	施策名	学校教育の充実	施策主管課長名	清水 学
施策関連課名			市立学校給食センター、学校教育課		

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 児童 生徒 学校施設 対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか) ○児童・生徒に対し、自ら学び続ける意欲と確かな学力を身に付けさせる。 ○いじめや不登校などの諸問題に取り組み、児童・生徒の教育を受ける機会を保障する。 ○学校施設の老朽化への対応や設備の更新に取り組み、安全安心な教育環境をつくる。 意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標
-----------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
① 対象指標	ア 児童数	人	見込み値			4,247	4,143	4,032	3,887	3,741	
			実績値	4,597	4,415	4,298	4,182	4,042	3,892		
	イ 生徒数	人	見込み値			2,289	2,291	2,261	2,221	2,187	
			実績値	2,342	2,356	2,299	2,267	2,204	2,175		
	ウ 学校施設数	校	見込み値			22	22	22	22	22	22
			実績値	22	22	22	22	22	22	22	
② まちづくり指標	A 学校生活が「楽しい」と回答した児童生徒の割合	%	目標値			89.2	89.4	89.6	89.8	90.0	
			実績値	88.8	88.9	91.3	90.7	90.8	91.3		
	B 授業が「分かる」と回答した児童生徒の割合	%	目標値			89.2	89.4	89.6	89.8	90.0	
			実績値	88.5	86.4	90.3	90.4	91.1	91.9		
	C 不登校児童・生徒の数	人	目標値			112	111	110	109	108	
			実績値	113	90	62	81	81	97		
	D 認知されたいじめの解消率	%	目標値			91.2	91.6	92.0	92.4	92.8	
			実績値	90.3	76.0	91.2	96.8	92.1	86.9		
	E 学校施設の非構造部材の耐震化工事実施割合	%	目標値			16.0	32.0	48.0	64.0	80.0	
			実績値	0.0	13.6	13.6	36.4	86.4	95.5		
まちづくり指標設定の考え方 【まちづくり指標の測定規格(アンケートか、統計か、数式など)】				<p>A: 学校生活の充実度を示す。 【学校評価における児童・生徒アンケートの設問『学校が楽しいですか』において、「楽しい」と回答した児童・生徒の割合】</p> <p>B: 学習環境の充実度を示す。 【学校評価における児童・生徒アンケートの設問『勉強は分かりますか』において、「わかる」と回答した児童・生徒の割合】</p> <p>C: 学校生活への適応度を示す。 【月ごとの長期欠席児童生徒調査より算出】</p> <p>D: 認知されたいじめが解消した割合を示す。 【認知されたいじめの解消率=いじめが解消した件数÷認知されたいじめの件数×100 【出典: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査】】</p> <p>E: 学校施設の整備状況を示す。 【非構造部材耐震化実施学校数÷市内22校×100】</p>							
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)				<p>A: 各学校でおこなっている学校評価より平均値を算出し、5年間で約2%の増加を目指す。</p> <p>B: 各学校でおこなっている学校評価より平均値を算出し、5年間で約2%の増加を目指す。</p> <p>C: 市内22校の月ごとの長期欠席児童生徒調査から、5年間で5人の削減を目指す。</p> <p>D: 家庭との連携の中で速やかに対応し、5年間で解消率2.5%の向上を目指す。</p> <p>E: 市内22校の整備計画に基づき10年間で実施する。</p>							

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
関連事業本数	218	210	220	213	195	190	185	
関連事業予算額(単位:千円)	1,711,338	2,634,033	3,200,688	4,302,690	3,106,453	2,207,582	1,997,256	
(予算額の内訳)	国庫支出金	4,204	61,380	172,561	193,970	65,483	1,926	27,595
	県支出金	456	1,111	1,943	1,310	1,289	1,782	1,760
	地方債	116,700	913,100	1,190,900	2,260,600	1,317,500	516,600	302,900
	その他	417,646	418,099	401,125	394,058	370,853	365,707	364,614
	一般財源	1,172,332	1,240,343	1,434,159	1,452,752	1,351,328	1,321,567	1,300,387

4 評価結果(施策の有効性評価)

① 目標達成度評価(目標値と実績値との比較)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	※左記の理由 ○指標A、B、Cについては、小中学校と連携しながら着実に事業を推進したことにより、目標値を達成している。指標Dについては目標値を達成していないが、これは国によるいじめの捉え方が変更されたため認知件数が急増し、そのため解消率も低下したと考えられる。 ○指標Eについては、大規模改造に合わせて耐震補強を実施する1校を除き、21校の耐震化を完了した。 ○国の捉え方の変更に伴い数値が低下した1項目を除き、目標値どおりの実績値であった。
② 時系列比較(基本計画現況値からの推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	※左記の理由 ○指標のA、Bについては、微増ではあるが向上し続けている。指標Cについては、目標値に達しているが、やや悪化の傾向にある。指標Dについては、上記のとおり基準の変更があったため、単純な比較ができない。 ○指標Eについては、26年度の事業開始から28年度までは目標どおり推移したが、29、30年度で事業計画の前倒しに重点的に取り組んだ結果、成果が大きく向上した。 ○成果の推移をみると、向上した項目もあるが、ほぼ横ばい傾向である。
③ 他自治体との成果実績値の比較	
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	※左記の理由 ○指標A、Bについては、他自治体との適当な比較資料がない。指標C、Dについては、国や県の調査結果とほぼ同等の数値である。 ○指標Eについては、県下他自治体のうち、小中学校を20校以上保有する甲府市、北杜市と比較すると、2市の耐震化率100%に対し、本市の実績値は95.5%であった。 ○他自治体との比較については、単純に比較できない項目もあるが、総じてほぼ同水準である。

5 まとめ(課題の抽出と解決の方向性)

施策の課題 (現状の問題点)	課題解決の方向性
「学校が楽しい」・「授業が分かる」とする児童生徒の割合は高いと言えるが、学力調査に現れる結果では、課題が残る部分がわずかにある。	○教員の指導力をさらに高めるため、指定事業の改善を通して、個々の教員の授業力と学級集団づくり力を粘り強く養成していく。 ○小中のギャップを埋め、効率的・効果的な教育課程を実施していくため、小中一貫教育を推進する。
いじめ・不登校など児童生徒の諸問題は多様化・複雑化しており、一層、個に応じた対応が必要となっている。	○小中のギャップを埋め、効率的・効果的な教育課程を実施していくため、小中一貫教育を推進する。 ○研修の実施により教員の指導力を向上させる。 ○諸関係機関との連携、人的配置の改善を通して、個に応じた対応をできるだけ可能にしていく。
ICTの活用が不十分である。	○電子黒板やWi-Fi環境の整備など、ICTが十分活用できる教育環境を計画的に整備していく。 ○教員のICT活用能力を高めるための支援や研修を行う。
昭和40年代後半から50年代に建設した施設の老朽化が進行している。	○老朽化の実態を把握するため、構造躯体の健全性及び屋上、外壁、内部仕上げ等に対する劣化状況調査を実施した。 ○この調査結果及び築年数や改修履歴などを踏まえるとともに、市の関連計画とも調整をはかりつつ、令和2から6年度の5カ年を期間とする「教育施設長寿命化計画(実施計画編)」を策定し、計画的な施設整備を実施していく。